

多摩南三二通信

平成9年12月1日発行
（財）東京都保健医療公社
多摩南部地域病院
地域医療連絡室No. 3

正しく知って 上手に受診

多摩南部地域病院は、地域の診療所や病院と連携し、24時間体制で第二次救急医療を担当しています。一般的に、急な病気やけがの約90%が軽症で、入院の必要のない場合がほとんどです。こんな時、どうすればよいのか、普段から知っていればあわてずに適切な治療を受けられます。そこで、今回は当院の救急受け入れ体制とあわせて救急時の対応についてご説明します。

その2 「救急」

いざという時こそ冷静な救急対応を

入院するほどではないと思うけど
次の日まで待つのは心配…

急な病気やけがのときは、まずかかりつけ医にご相談ください。夜間や休日の場合は、休日夜間診療所や在宅当番医を利用しましょう。各市の広報に当番医等が案内されています。最新の広報を保存しておき、いざというときに役立ててください。

生命に危険があり
一刻も早く病院に運ばなくては！

救急車を呼ぶときは、局番なしの「119」に電話して、次の内容をハッキリと伝えてください。

- ①まず「救急です」と言います。
- ②患者さんの居る場所・電話番号
- ③患者さんの人数・性別・年齢
- ④見たままの病気やけがの状態を簡潔に
- ⑤通院中の病気の場合はその病院名

救急隊は以上の情報から患者さんに最適な治療・処置をできる病院に搬送します。

もう我慢できない
もしかしたら入院
や手術かな…

当院の 救急受け入れ体制

救急受診は、紹介状がない場合も受入れています。まず電話でご相談ください。

患者さんの症状をうかがい、当直体制、ベッドの空き状況により、受診方法等をご説明いたします。

当院は二次救急医療施設ですので、ある程度症状の重い方の利用が中心になります。軽症の方は初期救急医療施設を利用されますと、症状の重い方の受診受け入れがスムーズになります。地域の医療機関を上手に利用することは、いざという時のお互いのルールでもあるのです。

昼間の救急は当院の全診療科で当番医が診療に応じています。尚、夜間・休日の診療体制は下記のとおりです。

- 内科系：内科または循環器内科の医師1名
- 外科系：外科または整形外科の医師1名
- 小児科：小児科の医師1名
- その他：その他の科の医師1名

急な発熱・喘息発作
腹痛など

初期救急医療施設
・休日夜間診療所
・在宅当番医

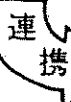
意識や呼吸がおかし
いようだ

第三次救急医療施設
・救急救命
センター

頭痛・腹痛などの
症状が強くなるなど

第二次救急医療施設

入院施設のある
救急告示病院
・多摩南部地域病院など



救急車の出動件数が年々増えています。平成8年度中の搬送内訳では、軽症が全体の約6割、入院を要する中等症が約3割を占めています。

出動件数の増加は重症患者の搬送を遅らせ、尊い生命を失うことにもなりかねません。軽症での救急車の乱用は止めましょう。

次号以降では、「正しく知って上手に受診シリーズ」として返送・逆紹介等についてご説明する予定です。